

長浦小学校教育環境整備地域説明会 会議録

- 1 日 時 令和5年(2023年)12月7日(木) 18:00~20:00
- 2 場 所 長浦コミュニティセンター 集会室兼体育室
- 3 参加者 25名
- 4 事務局等

教育総務部	部 長	古谷 久乃
学校教育部	部 長	川上 誠
学校管理課	課 長	二見 裕
教育政策課	課 長	飯田 達也
教育政策課	主 査	大堀 圭輔
教育政策課	主 任	高品 慎介
教育政策課	担当者	松本 勇人

5 議事内容

○飯田教育政策課長(事務局)

定刻になりましたので、田浦地域の教育環境整備についての説明会をはじめます。

本日、説明会の進行をつとめます、横須賀市教育委員会教育総務部教育政策課長の飯田と申します。

よろしく申し上げます。

教育委員会事務局の職員を紹介します。

《 事務局職員紹介 》

なお、本日の説明会は、会議録を作成するため、録音をしたいと思いますので、ご了承ください。

それでは、お配りしました資料の2ページをご覧ください。ページ数については、資料の右下に記載しています。

まず、本日の説明会の趣旨について、ご説明します。

横須賀市教育委員会では、令和4年3月に策定した「横須賀市教育環境整備計画」に基づき、人口減少が進む本市において、学校規模の小規模化、施設の老朽化及び通学区域に関する課題等の解決に向けた検討を行い、市立小中学校の教育環境の整備を行うため、令和4年5月23日に田浦地域及び走水・馬堀地域における市立小中学校の教育環境整備の推進について、横須賀市立小中学校適正配置審議会へ諮問を行いました。

すでに新聞報道等によりご存知の方もいらっしゃると思いますが、令和5年10月31日に、横須賀市立小中学校適正配置審議会から教育委員会へ「田浦小学校区を長浦小学校区に編入する方策が妥当である」と答申されました。

本日は、答申までの経緯や答申内容等について、皆さまへご説明し、ご意見等をいただくため、説明会を開催いたしました。

なお、具体的な方策の決定につきましては、令和6年1月に予定している教育委員会議等による審議を経て決定されます。

本日ご参加いただきました皆さまにおかれましては、答申内容に関する事、これまでの教育環境整備の経緯、統合された場合の影響や懸念など、さまざまなご意見や疑問、ご不安をお持ちかと思っております。

まず、事務局よりご説明を行い、説明後、皆さまからのご質問やご意見をお伺いしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、田浦地域の教育環境整備について、担当より説明します。

◀ 田浦地域教育環境整備について事務局から説明（資料） ▶

○飯田教育政策課長（事務局）

それでは、これより、質疑応答を行います。

答申内容に関する事、これまでの教育環境整備の経緯、統合された場合の影響や懸念など、なんでも結構です。

ご質問、ご意見のある方は挙手をお願いします。

○参加者

編入という言葉が、途中から統合という言葉に変わっていますが、編入と統合では全く違うことだと理解しています。

今の説明では表現の違いであり、編入とは統合だという説明のように聞こえたので、説明をお願いします。

また、統合にかかる説明の中で、二つの学校が新しい学校になるということでしたが、田浦小学校と長浦小学校が廃校となり、全く新しい学校が新設されるということで間違いはないでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

編入というのは学区の話であり、学区としては田浦小学校区を長浦小学校区に編入するという表現です。

これは形としては、長浦小学校の校舎を使用し、田浦小学校区の方も通うということになります。そのような意味で、統合という表現になっています。

二つの学校が統合して新たな学校になるということについては、手続き上は二つの学校を廃止した上で、新しい学校を設置するという手続きになります。

○参加者

田浦小学校と長浦小学校の廃校ということによろしいですか。

○古谷教育総務部長（事務局）

新しい学校がどのような形になるかは、校名をどうするかによって決まります。

今後、仮に統合が決定した後には、校名をどうするかということを、地域の皆さまや保護者の皆さまからご意見を伺いながら決めていく予定です。

その結果、長浦小学校という名前で、長浦小学校の場所で引き続き継続されるということであれば、長浦小学校を廃止するのではなく継続し、田浦小学校については手続き上廃止ということになります。

また、新しい学校が長浦小学校の場所で、田浦小学校という名前を使うということになれば、田浦小学校が継続し、長浦小学校が廃止になります。

もう一つの案として、全く新しい学校名にするということになれば、両校を廃止して、新しい学校を新設するということとなります。

それは今後、校名をどのようにするかによって決定されるものになります。

○参加者

それは学校名によることなのでしょう。

長浦小学校は150周年記念式典を行いました。151年、152年と続いていくのか、廃校になるのかということは大きな問題だと思います。

学校名はどこが決めるのでしょうか。

○古谷教育総務部長（事務局）

学校名については、最終的には教育委員会で決定しますが、決定に至る経緯の中では、皆さまからご意見を伺いながら決めていく予定です。

学校名によって決まるのかというと、最終的にはそのようになります。

○参加者

統廃合によって長浦小学校が廃校になるかどうかではなく、新しい学校名をどうするかによって長浦小学校が廃校になるかどうかが変わるということですか。

○古谷教育総務部長（事務局）

そのとおりです。

ただ、両校の統合に伴う子どもたちの気持ちの面では、あくまでも二つの学校で新しい学校を作っていくという気持ちで進めたいと考えています。

○参加者

資料の 8 ページに小学校の学校規模の状況一覧があります。

走水小学校、逸見小学校、沢山小学校、汐入小学校、追浜小学校というように、児童数が 100 名を切っている学校が並んでいます。

その中で、なぜ 130 名いる田浦小学校と長浦小学校を先にやるのでしょうか。

この順番でいけば、一番から順番にやっていくのが本来ではないのでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

教育環境整備計画において検討する順番を定めております。

資料の 8 ページでご説明しますと、一番の走水小学校については今回の前期計画で、田浦地域と同時に走水小学校区と馬堀小学校区の検討をしており、一番初めに進めています。

二番から四番の逸見小学校、沢山小学校、汐入小学校については、後期計画として載せていますので、次に検討を行うのはこの学校です。

追浜小学校については、追浜駅前の開発等の状況があるので、後にしております。

なお、田浦小学校と長浦小学校については、両校が小規模であるということもあります。

また、田浦小学校が市内で一番古い学校であるという老朽化の問題があり、建て替えについての検討も行った上で、前期計画に載せています。

○参加者

逸見小学校は狭いところで子どもたちが運動しています。

どうしてそのようなところを、より広い場所に変えてあげられないのでしょうか。

そのような順番ではないですか。

このような順番は誰の権限で決めているのでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

次の段階で逸見小学校、沢山小学校、汐入小学校及び桜小学校について検討を始める予定です。

一番にした理由については、走水小学校は全校児童が 32 人と市内で一番少なく、2 年生が 1 人で複式学級ということがあります。

複式学級とは、1 年生と 2 年生が一つの学級で学ぶ環境であり、これは喫緊の課題として対応すべきだということで検討しています。

田浦小学校と長浦小学校については、隣接する両校の小規模化、田浦小学校の老朽化が市内で一番進んでいることが理由です。

その次に、児童数が少ない逸見小学校、沢山小学校、汐入小学校については、後期計

画、つまり二番目に位置付けています。

○参加者

編入ではなく統合になるということですが、統合というのは地域別協議会の中でほとんど話題になっていなかったと思います。

自治会においていろいろな資料を町内に回覧をしている中で、あまり意見が出てこなかったというのが実態です。というのは、田浦小学校区が長浦小学校区に編入という言葉を見て、あまり前向きに捉えなかったのではないかと感じています。

田浦地域の方はご苦労されるという思いばかりで、長浦地域としては受け入れる立場というニュアンスだったのではないかと感じています。

地域別協議会で話してきた中で、両校を廃止するという事は、私の頭には毛頭浮かんでいなかったです。

編入がどのようにして統合ということに変わってきたのか、過程をご説明ください。

また、そうした場合の長浦地域の住民感情としては、校名や校歌などいろいろな話が出てきています。

地域別協議会で論議してきた中で考えると、さらに時間をかけることで相当な意見が出てくるのではないかと思います。

田浦地域の方々のご意見を直接聞く機会はありませんでしたが、12月1日、3日の田浦地域の方のご意見も参考にしたいと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

審議会においても編入という表現について、答申をまとめる段階で議題になりました。

編入というと転校してくるようなイメージがあり、移ってきた子たちが外から来たような感覚に陥ってしまうということで、そうした状況を避けるべきであるというご意見がありました。

資料の29ページに記載の、審議会がまとめた答申の内容にかかる付言の中には、教育環境整備の方策を実施するに当たっては、両校の児童が円滑に新たな環境で学べるようにすること、とあります。これは、案の段階から最後に追加された部分です。

あくまでも対等な関係で、新しい環境で学べるようにした方が良いのではないかとこの考え方が出ました。

その結果、答申内容としては学区の編入という表現ですが、考え方としては、両校の児童が対等に新しい環境で学べるようにということで、統合という考え方をお示ししています。

○参加者

編入と統合についてですが、答申については統合という言葉が書いていません。

これでは、後からこう知らされたような感じで受け取る方が多くいらっしゃるのではないかと思います。

統合という考え方であれば、答申内容に入れるべきではなかったでしょうか。

○飯田教育政策課長（事務局）

答申内容における、田浦小学校区を長浦小学校区に編入する方策が妥当である、という文言中の編入という言葉ですが、これは学区について編入という言葉を使用しています。

編入というのはあくまでも学区の話であり、意味合いとしては統合であると理解しています。

これまでの地域別協議会においても、題目としては田浦小学校区を長浦小学校区へ編入する、という案で審議会へ報告していますが、中身の話をする際には、例えば田浦小学校と長浦小学校を統合した場合の、というように、それぞれの学校を指す場合は統合という言葉を使ってご説明していますので、ご理解いただければと思います。

○参加者

二つの学校を一つにすることには、いろいろな不安があり、子どもたちの教育に大きな支障が出るのではないかということが一番に思います。

今の状況でも、学校の先生の人数が非常に少なく、職員室に行っても、授業中はほとんどの先生がいないという状況です。

また、感染症等で先生が休んでいるときに、教頭先生など、普段は授業に出ていない先生が授業に出ており、本当に人が足りないと感じています。

このような状況で二つの学校が統合することは不安だということを以前伝えた際には、1年間先生を増やすというお話でしたが、1年間だけということも不安です。

このようなことによって子どもに影響が出るのが一番不安ですので、そこについて、この場にいる皆さまにもご納得いただけるような説明をいただけますでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

教員数は法令で決まっています。学級数によって先生の配置が決まっているので、小規模な学校については配置される先生が少なくなります。

そのため、そういった点も小規模校の課題と考えております。

複数の学級が確保されるのであれば、その分の先生も確保されるので、学校内にいる先生も増えます。

先生が増えれば、先生同士の連携や相談、育成といった部分も充実していきますので、子どもたちの教育上も良い方向に向かうと思っています。

1年間だけというお話がありましたが、それは学級数が増えることによって増員する先生の数とは別に、統合の激変緩和として配置されるものですので、通常のルールとは別の話です。

○古谷教育総務部長（事務局）

二つの学校を一つにすることで教育に支障が出るのではないかと、不安だというご意見をいただきました。

教育委員会としては反対に、この二つの学校がこのまま継続していくことについて、非常に心配をしています。

資料の16ページ、17ページに記載がありますが、両校とも、各学年1クラスずつ6学級の学校です。

特に人数が少なくなると、男女の数のアンバランスも課題になります。

今の長浦小学校の4年生は男の子が2人、女の子が14人という状況であり、このような状況で、非常に多感な時期に成長していく6年間を過ごしていくということに、大変危機感を持っています。

学校という場は、子どもたちが多くの友達、多くの先生たちと触れ合いながら、いろいろな考え方を吸収して成長していく場だと思っています。

そういった意味でも、クラスの人数が多くなり、複数の学級があれば、いろいろな活動ができます。

小さい単位での活動だけではなくダイナミックな活動もできますし、教育の場面によってはグループを編成して活動することもできます。

総合的な学習の時間などでいろいろな発表をするときに、クラスの中だけでの発表ではなく、隣のクラスと一緒に発表することで自分たちがやってきたこととは違う広がりが出せるといったこともあります。

そのような考えから、学校の環境においては、クラス替えができる学級数を維持したいと考えています。

また、子ども同士のトラブル等でクラスに居づらくなってしまった子が出た場合についても、学年が変わる際にクラス替えをすることによって、解消する手段になります。

先生についても、非常に年齢構成が高くなっており、新規採用の先生が増えている中では、学年でクラスが一つということになると、新任の先生が1人で学年経営を行っていかねばなりません。複数のクラスがあれば、隣のクラスの先生にいろいろなことを聞きながら、先生自身も成長していくことができます。

先生は学級数に応じて配置されるので、学級数が増えれば先生の数も増えます。

そういった学校運営面からも、学校の規模は維持したいと考えています。

統合に伴う一時的なご不安はあるかもしれませんが、そういったご不安は払拭できるよう、学校とも相談しながら進めていきたいと思っています。

○参加者

クラスが多いメリットもあると思いますが、田浦小学校も長浦小学校も、今は1クラスでも非常に良い雰囲気だと思います。

たくさんの子童がいる方が良い面もあると思いますが、関わってきた先生からは、長浦小学校はすごく良い雰囲気だという声を聞いています。

おそらく田浦小学校もそのような感じだと思います。

また、クラスに居づらい子について、学年が変わったときにクラス替えで解消するという考え方もありますが、それで解決するというのは安易だと思います。

そのようなやり方だと、例えばいじめに遭っている子がいた場合にはターゲットが変わるだけでまた別の子がいじめられる、というような問題があります。

子どもが増えると先生の人数が増えるという話ですが、クラスが増えるので担任の先生の数は当然増えると思います。それとは別に、担任の先生が体調不良等になってお休みされた時に、級外の先生や教頭先生が授業をしていると思いますが、そういった担任を持っていない先生の割合はどうなるのでしょうか。

長浦小学校の場合、6クラスしかありませんが、先生がお休みのときには数が足りないという声を聞いているので、これはクラスが増えて担任の先生自体が増えた時にどうなるのか心配です。

先生が休みにくい状況は、先生にとっても非常に良くないと思いますし、先生にとって働きやすい学校であることが子どもの教育に繋がると思いますので、そのような点についてお聞かせいただければと思います。

○古谷教育総務部長（事務局）

教員数についてですが、学級数が増えれば当然担任の数は増えます。また、学級数に応じて級外として配置される先生の数も増えますので、小さな学校よりは改善されると考えています。

なお、いじめなどの問題をクラス替えで解消しようといった意図ではございませんので、ご理解いただきたいと思います。

田浦小学校、長浦小学校共に小さな規模の中で、先生方は非常に工夫して、努力しながら、デメリットが出ないように、メリットを生かすように教育を行っています。

これは先生方の努力によるものだと思っています。

○川上学校教育部長（事務局）

クラス替えというのは一つのツールになる可能性があるということで、いじめ等の問題については単級でも複数学級でも、その中で解決していくことが大原則であると認識しています。

先日の田浦小学校での地域説明会において、田浦小学校は本当に良い雰囲気、横須賀市の中でも一番ではないかという声がありました。走水地域でもそのような声がありました。

大規模校や適正規模の学校において、保護者とお話する中では、この学校はすごく良い雰囲気ですという声が聞こえてきます。横須賀市には小学校が46校ありますが、教育委員会としても、そういった部分については自負しています。

統合がスタートしてからの不安についてありましたが、仮に統合が決まった場合は一定の準備期間を設け、その中で、まずは先生同士の交流、研修を行います。

子どもたちがどのようにして安心安全に生活できるかという、カリキュラムや時間割、行事のすり合わせなどを行いながら、その中で子どもたち同士の交流も含め、PTAの方たちの交流も含めながらスタートするという想定をしています。

教育委員会としてもそのようなことを配慮しながら進めていきますので、ご安心いただければと思います。

○古谷教育総務部長（事務局）

資料の17ページに児童数の将来推計を掲載しています。

今は田浦小学校、長浦小学校のどちらも各学年20人前後の人数がおり、それなりの規模で教育活動ができています。

しかし、数年後になると田浦小学校で 93 人、長浦小学校は 89 人と、90 人を割る状況になります。これは住民基本台帳で推計をしており、実際に住んでいる子がそのまま大きくなった時の数字です。

こうなってしまったときには、1 クラス 15 人前後、学年によっては 10 人を切ってしまう学年も発生します。そうってからでは遅いと思っています。

現に走水小学校がそのような状況になっておりますので、今この規模のうちに、両校の統合については考えたいと思っています。

○参加者

田浦小学校の建物の築年数にかかる問題は、市の定めによると耐用年数限度まであと 10 年程度あるということで間違いないでしょうか。

○二見学校管理課長（事務局）

80 年という数字についてご説明します。

田浦小学校は鉄筋コンクリートの校舎です。鉄筋コンクリートの骨組みの部分については建物を長寿命化しなければならず、お金をかけて手を入れなければなりません。そのような算定をするに当たって、一つの指標として掲げているのが 80 年です。

なので、80 年経過したら必ず壊れてしまうということではありませんが、鉄筋コンクリートの寿命として数字を定めておかなければ、他の計画や補修の検討ができませんので、80 年という基準を定めており、それに基づいてさまざまなことを検討しています。

○参加者

80 年というのは一つの目安であり、数字上は使えていてもおかしくない数字という理解でよろしいでしょうか。

○二見学校管理課長（事務局）

そのように思っただいて構いません。

○参加者

田浦小学校は建築基準法やその他法令等、市の判断の及ばない領域において、現行の土地で建て替えをすることは難しいという理解でよろしいでしょうか。

○二見学校管理課長（事務局）

建物を建てる、あるいは土地利用行為を行う、そういった場合にかかる関係法令が幾つもあります。建築基準法や都市計画法、土砂災害関係の法令もあります。

そういったものによって、一定規模以上の土地利用行為をする際には、さまざまなルールがあります。

例えば、国道 16 号線から田浦小学校に至るまでの道路の幅員が狭いという問題があります。

今の道路の幅員では、1,000 平米程度の土地利用行為、あるいは建物の延床面積が 1,000 平米までの行為が可能です。

現行のルールでは、その道路の幅員が9メートルないと、1,000平米以上の開発行為ができないというルールになっております。

また、田浦小学校の体育館裏側がレッドゾーンにかかっているという問題もあります。

○参加者

小規模校の問題についても含めて考えると、田浦小学校の場所にある小学校と長浦小学校のある場所にある小学校の二つで再編を行うしか手段はないのだと考えているということで理解をしました。

学区の編入、小学校の統合が決まったという時点で、全ての住民が知るができるような手段で広く周知をし、十分な周知期間を持っていただきたいと思います。

田浦地域にお住まいの方の感情等も考慮して7年という期間を要求したいと思います。

田浦小学校の広大な範囲から小学校がなくなるということは、その地域の住民にとって非常に大きな問題であり、特にここ数年で引っ越してきた方、あるいはこれから引っ越してくることを検討している方にとっては、人生設計に大きな影響を及ぼすことだと思います。

来年や再来年から最寄りの小学校まで徒歩で30分以上かかる、距離にして3キロ以上かかるようになるというのは、スクールバスや路線バスの通学補助があったとしてもそれは苦肉の策であり、安心して住むことができるということではありません。

7年というのは、すでに在学中の児童及び、周知時点で就学が決定している、次年度入学の児童が卒業する年数という考えです。

長浦小学校という名前がなくなって欲しくないという住民感情はあります。

ただ、児童が優先であり、転校してくる田浦小学校の子を元からいる長浦小学校の子が受け入れるというのでは問題が多く起こる、ということにも理解は示します。

最短で令和7年4月になくなるということ、長浦地域に住んでいる方が理解しているのでしょうか。

随分前から田浦小学校がなくなって長浦小学校に来るかもしれない話はありませんでしたが、決まったわけではありませんでした。ましてや、長浦小学校という名前がなくなるかもしれないということは、住民は考えたこともないと思います。

考えたこともないことは意見を言うこともできていないので、話し合うための期間として7年という期間を要求します。

また、船越小学校の建物もさほど長く持ちません。おそらく10年程度で今回と同様の話が出てきますが、船越小学校もレッドゾーンの点を考慮すると、そのままの土地で建て替えというのは難しいのではないかと思います。

船越小学校の学区で似たような土地、小学校に適するような土地を別で用意するのは難しいのではないかとということ、船越小学校の建物の問題が出てくる頃には、田浦小学校と長浦小学校で再編される小学校もまた小規模化していることを考えると、船越小学校と、田浦小学校と長浦小学校で再編された小学校がもう一度再編するという話が出てくることは想像に難くありません。

今回再編するとき新しい名前を考えて新しい学校ができたとしても、船越小学校と統合するときまた同じことをやるかもしれないということ、船越小学校の問題も一緒に考えることで問題が起こる機会が減ると思います。

そういったことも考えて、最終的にどうしたいのかというところを踏まえて考えていくためにも、令和7年4月というのは余りにも拙速にすぎるのではないかと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

今は答申を受けた段階であり、方策や時期の決定については教育委員会議で決定しますので、今回このようなご提案を受けたということは教育委員に伝えた上で審議の上、決定したいと考えております。

ご提案ありがとうございます。

○参加者

学校統合を賛成する立場です。

この地域説明会は教育委員会事務局の主催ということですが、田浦小学校が100年、長浦小学校が150年ということで、学校の歴史は学校教育とは別に、長い歴史がある地域の拠り所といった部分があると思います。

自分が通っていた頃、隣の逸見小学校区の吉倉からも同級生が来ておりました。

火災のときに、ここから田浦小学校まで歩いて通いました。

そのようなことを考えて、地域の学校が持つポテンシャルのようなものは別の角度で、理解が得られるように考えていただきたいと思います。

○飯田教育政策課長（事務局）

今回は教育環境整備ということで、教育委員会が主催しています。

ただ、あくまでも窓口は教育委員会ですが、こういったご意見等も踏まえて、関係部署へ伝えていきます。

どういったお答えができるかはこの場でお答えできませんが、検討したいと思います。

○参加者

児童数の推計で6年先まで人数が示されていましたが、そうすると今の小規模化は6年前に分かっていたことだと思います。6年前に、6年後に統合しますと提示していただいて、地域住民にも説明を繰り返してきてから今回があるということのをされなかったのは、市の責任だと思います。

田浦地域の方は切実な思いを述べられていました。本当に反対されているということを感じました。

編入されてくる側だと思っていたので問題意識を持っていませんでしたが、田浦地域の方はずっと反対運動をされていたのだと思いました。

通われている小学3年生の方も参加されていて、クラスでアンケートとり、みんな反対です、ということを発表していました。

ニュースで反対が賛成を上回っているということも出ていましたが、そういった田浦地域の方の反対の状況があったとしても、このまま2年後に強行されるおつもりですか。

どの程度の反対があれば、今回の計画は先送りや中止になるのでしょうか。

○飯田教育政策課長（事務局）

今回は審議会という、教育委員会ではないところで議論をしていただきました。審議会の答申というのは、教育委員会としても重く受けとめておりますので、今回いただいたご質問やご意見を全て踏まえ、今後予定している、市長が出席する総合教育会議、教育委員会会議の中で決定します。

○参加者

地域の反対の状況によっては、この計画が先送りになることもあり得るということですか。

○飯田教育政策課長（事務局）

最終的には我々の判断ではありません。

こういったご意見も全てご提示し、その中での判断になります。

決定したものが覆るかといったことについては、この場ではお答えできません。

○参加者

人口減少に伴う少子化ということで、統合というはやむを得ないと思います。

その中で、統合による影響が大きいのは子どもです。その子どもの意見はどのように聞いていますか。

一番大事なところが抜けているように感じます。

教育の中で、相手を思いやる気持ちというものを子どもが持ってくれば問題はありません。その大事なものを、親が子どもを炊きつけて壊しているかもしれません。

統合せざるをえないというのであれば、もう少しステップを踏み、子どもの意見を十分聞くべきだと思いますが、教育委員会の見解はどうでしょうか。

○飯田教育政策課長（事務局）

教育委員会としても学校にいる子どもたちが主役だと思っています。

審議会の中でも、子どもからの意見聴取が必要ではないかという議論がありました。

その際は、子どもの意見を聞くということはとても大事だと思います。ただし、今少人数の中にいる児童生徒たちは少数の体験しかできていません。そうした中で、大きい学校に編入されるということを考えるのであれば、大きい学校に行ったらこのようなことができる、このような環境になるということを実体験させて、少人数環境から大きい環境への集団活動というものを体験させてから、子どもの意見聴取をすることが大事ではないのか、というご意見でした。

子どもたちの意見聴取は大事だと思います。

ただ、行うタイミングややり方については、これから校長先生と調整しなければならないと思っています。

○参加者

今までに何かやりましたか。

○飯田教育政策課長（事務局）

現段階ではやっていません。

現状しか知らない子どもに対してアンケートを取るということは難しいと考えています。タイミングを見計らいながら、アンケートが良いのかということも含めて検討していきます。

○参加者

長い時間をかけて、しっかりと意見聴取していただきたいと思います。

全国の統廃合では最終決定が議会です。横須賀市の場合も議会になると思いますが、それはやめていただきたいです。

地域に出ている議員がいれば良いですが、いないところがどうなるかという問題があります。議員がいるところは強いですから、このような順番でやっているのも全て議員が口を出すからです。

そのようなところをきちんと整理して、住民の声を聞いた上で実施していただきたいです。

○大堀教育政策課主査（事務局）

最終決定については市議会ではなく、教育委員で構成する教育委員会議になります。

誤解があるようですが、教育環境整備計画の順番については特に議員の有無によって決めたものではありません。

○参加者

統廃合するというやり方もあるかと思いますが、横須賀市内の中で、とても児童数の偏りがあると思います。

便利なところに住みたい人が多いので、便利な地域の人口が増えると思います。

例えば、空き家問題等とも絡めて、お子さんをお持ちの、これから家族が増えるような家庭を優遇するような施策をしていただくなど、人口が増えるような別のアプローチから、児童数の減少について取り組んでいただきたいと思います。

また、商店が少ないので、出店しやすいような優遇政策を出していただくなど、横須賀市内での人口の偏りを解消できると良いと思います。

非常に多くの空き家があるので、新しい人たちが入ってこられるようなことをしていただけると、とてもありがたいと思います。

人が少ないところは統合していこうということですが、そのような場所は過疎化していくと思います。若い世代が入ってこなくなってしまうと人口が減ってしまうので、そうすると別の問題が出てくると思います。

郵便局なども減っていますが、そのようなやり方がいろいろなところで起こってくると、より偏りが強くなるのではないかと思います、別の視点からアプローチしていただきたいと思いました。

○飯田教育政策課長（事務局）

市役所のさまざまな部局にしっかりとつなげていきたいと思います。
ご提案ありがとうございます。

○参加者

たくさんの会議を経て、このような説明会になったのだと思っています。
地域別協議会は、事務局が教育委員会ということで、率直な意見が出ないという感想です。また、事務局の進め方が統合ありきの進め方だったと思います。
先日の走水地域の説明会でも、反対の声が粘り強く出ておりました。
昨年、横須賀市では、子どもの権利を守る条例というものが施行されました。
子どもの声を聞く必要があるといった条例ですので、このような件にも生かしていただきたいと思っています。
これからどのように統廃合が決まり、進んでいくのかということについて、市議会に報告し、総合教育会議、教育委員会議があると思います。
そういったことをもう少し説明する必要があると思います。
今月号の広報よこすかに、総合教育会議の日程が令和6年1月11日とあります。
市議会に報告される日や教育委員会議の日程は広報よこすかやホームページにはありません。
どのような流れで、それは何日なのか、どこに記載があるので、どのように地域の皆さまへ周知していくのかということをもう少し説明してほしいと思います。
地域の皆さまは反対の方がいらっしゃいますので、より丁寧に、真摯に声を聞いていただきたいと思っています。

○大堀教育政策課主査（事務局）

市議会については、12月6日に環境教育常任委員会で報告をしています。
総合教育会議については1月11日に開催予定です。
その後の教育委員会議については、まだ日程が確定していません。ただ、教育委員会議は毎月行っています。

○参加者

市議会の環境教育常任委員会で報告した際の様子はどうだったのでしょうか。
報告について質問があったのか、特に反対はなく市議会ではこの件は終わりになるのか、そのようなことを市民は知りたいと思うので、ご説明をお願いします。

○飯田教育政策課長（事務局）

10月31日にいただいた答申の内容の報告、12月3日までの地域説明会におけるご意見のご説明をしました。
これは一般報告という形での報告案件ですので、議員の方が何かを決めるということではありません。ただ、議員からご質問がありました。
編入なのか統合なのかといったことは、本日と同じようにご質問いただいています。
また、しっかり進めて欲しいというご意見もいただきました。

この後の計画に載っている他の地域にかかる考えについてもご質問がありました。

1月11日に総合教育会議があり、その後に教育委員会議がありますが、答申の報告につきましても、12月21日に教育委員会議がありますので、こういった説明会の内容やいただいたご意見については必ず報告したいと思います。

○参加者

議会に関しての報告はこれで終わりということですか。

○飯田教育政策課長（事務局）

どこが終わりかというところは難しいですが、流れとしては1月11日に総合教育会議、その後に1月の教育委員会議を経ていきます。

その内容の報告は別途、議会にしなければならないと思います。

○参加者

12月6日に議会へ報告されたということは、今日の地域説明会の意見は伝えられません。形だけの開催だったということですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

会場の都合で本日の開催になってしまい、申し訳ありません。

本日の内容はお伝えできていませんが、同じ内容の地域説明会を12月1日と3日に行っており、その際のご意見についてはお伝えしています。

○参加者

1日は田浦地域ですので、長浦地域の意見については最初から伝えられる予定はなかったということですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

3日については両地域合同で行っており、両地域の意見を伺いました。

○参加者

同じ内容で開催されるということでしたので、多くの方が本日参加されていると思います。

○飯田教育政策課長（事務局）

地域説明会と議会の環境教育常任委員会のスケジュールの関係でこのような形になってはいますが、最終的には教育委員会議で方策の決定をします。

本日の説明会の内容については、12月21日の教育委員会議で資料としてお付けしたいと思います。

○参加者

保護者として、ここへ来て初めて長浦小学校が廃校になるという言葉が出てきたので、反対意見がこれから出てくるのではないかと思います。

どのようにして反対運動をしていこうかと考えたときに、どのタイミングまでなら反対意見を伝えられるのでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

ご意見については地域説明会等で伺っています。また、随時ご意見を募集しております。

○参加者

署名活動を行った際には何月何日までに提出すれば間に合いますか。

決定した後に提出して、それが覆ることもあるのでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

覆るということは想定できません。

○参加者

子どもの声を聞くというのもタイミングを見てとおっしゃっていましたが、今のスケジュールからすると、どのタイミングで子どもの声を聞くのでしょうか。

日程的には、どの程度の期間を考えているのでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

子どもの声を聞くということについては、審議会で意見を聞いた方が良いのではないかという議論になった際に、心配や提案事項がありました。聞き方も難しいと思っています。

子どもに、統合についてどう思うかを聞くのであれば、背景がどのようなものなのか、横須賀市の人口減少、小学校の小規模化、学校施設の老朽化等、横須賀市の抱えている課題等を理解した上でご回答いただかなければいけません。

これは難しい部分があると思います。そうすると、統合が良いか悪いかという聞き方になると思います。

それでは、友達と離れるのが寂しい、学校がなくなるのが嫌だ、友達が増えるのが楽しみ、といった感情面のご意見しか出ないと思います。

そのようなご意見を教育委員会としてどのように取り扱うかということは難しいと思っています。

そのため、子どもたちの意見を聞くタイミングとして考えられるのは、方策の決定後です。

決定した方策に対して子どもたちの要望や希望、もしくは不安というものを聞き取り、酌み取った上で、対応していくことを考えております。

○参加者

子どもの声は聞かずに方策を決定するということによろしいですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

方策の決定については、難しいと思っております。

○参加者

決定事項であり、このままスケジュール的に進めていくということだと思います。

これから反対運動をしても署名活動をして、影響はないということでしょうか。

どれだけ地域住民が反対をしてもこのまま強行するというのであれば、地域の方に統合させてくださいとお願いしたらどうでしょうか。

どうして私たちが統合を先送りしてくださいとお願いしなければならないのでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

今の段階では決定事項ではありません。今回の説明会は、審議会から出た答申内容の皆さまへの報告になります。

決定の前に皆さまからご意見を伺い、そのご意見、ご要望について極力反映したいと考えており、そのためにこのタイミングで地域説明会を開催しています。

○参加者

長浦小学校にとっては、廃校になるかならないかというところで反対意見は大きく変わると思います。

統廃合が決まってから学校名が決まり、それによって長浦小学校が廃校になるかどうかが決まるということになるので、なかなか反対運動の取り組み方も難しいと思っています。

統廃合が決まってから長浦小学校の廃校が決まるという流れでよろしいですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

統合が決まっていない状況で跡地の利用や校名についてのお話ができたとすると難しかったと思います。

皆さまからご意見を伺った上で方向性を決めてきたという手順を踏んでいます。

方向性が見えた段階で、改めてこのような方向性が見えてきたので、皆さまのご意見を伺うという場が今回の地域説明会であり、順を追って、皆さまのご意見を聞きながら進めているという現状です。

○参加者

長浦小学校が廃校になるというのは誰が決めたことですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

現状の報告をしますと、答申としては、田浦小学校区を長浦小学校区に編入するというものが出ています。

考え方としては、場所が長浦小学校になりますが、子どもたちのことを考えると、手続きの話ではなく、進め方としては統合という考え方で、対等の立場で新しい環境として進めていくのが良いのではないかとことです。

手続きの話としては、廃止という手続きがあります。ただ、考え方として子どもたちが今後、その方策をとった際に一緒に学校生活をしていく中で、どのように進めていくかということを考えれば、対等の立場で行った方が良いのではないかとことです。

校名等の検討も今後していかなければいけませんので、それについては改めて、ご意見を伺いながら検討をしたいと考えています。

○参加者

教育委員会が子どもに問いかけることは難しいと言わなければならないことなので、我々が子どもに問いかけて、その結果を報告しようと思いますが、いかがでしょう。

○大堀教育政策課主査（事務局）

難しいというのは、方策の決定にかかる質問をするのは難しいという意味です。

地域の方や保護者がそれぞれでアンケートをとって、子どもたちのご意見等を聞くということであれば、教育委員会として止めることはしません。

走水地域でも保護者アンケートを行っていましたが、田浦小学校の3年生が独自にアンケートをとったということもありますので、そのようなものがあつてご提供いただけるのであれば、それも参考にしようと思えます。

○参加者

長浦小学校だけ、田浦小学校だけではなく、全ての横須賀市の小学生の満足度アンケートをとって、大きな学校の子が満足していて小さな学校の子たちが不安を覚えているのかどうかということを調べることは可能だと思います。

保護者アンケートも学校に対してどう思っているかというのを受けたことがあります。小規模校の保護者はみんな困っていて大きな学校の保護者が困っていないということになっているのでしょうか。小さい学校はかわいそうだというように聞こえますが、もう少し調べられると思えます。

○大堀教育政策課主査（事務局）

全ての学校にアンケートをとることは可能ですが、それぞれの学校で状況が違います。

全員が小さい学校と大きい学校を経験しているという状況ではありませんので、単純にそれぞれの学校の満足度は把握できますが、教育環境整備の検討には参考にならないと考えます。

小規模については、メリットもデメリットもありますが、小規模が悪いということではなく、一定の規模を確保すれば、できることが増えるということであり、完全に小規模を否定しているということではありません。

○参加者

小規模はメリットがあるので、今すぐに統合しなくても、他の地域から人口が増えるような政策をとっていただくこともできると思います。

いろいろなことが急すぎて納得いかないと思います。

○参加者

保護者が独自にアンケートをとることは、教育委員会としてはやぶさかではないというように受け取りましたが、間違いないでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

止めることはしません。

いただいたものはご意見として、全てお預かりしたいと思います。

○参加者

長浦小学校としては、児童にアンケートをとりたいと思い、PTAにも伝えようと思えます。

ぜひ田浦地域でも何かしらの形で、そういったお話を伝えていただき、田浦小学校の児童がどのような思いでいるのか伝えていただければと思います。

○古谷教育総務部長（事務局）

子どもたちの思いについて、アンケートなどをもって伝えていただけるということは、大変ありがたいことだと思います。

ただ、思いの部分について、課題をどう解決していくかというのは非常に難しい面もございます。

教育委員会としては、現在の田浦小学校、長浦小学校の小規模の状況は、決して望ましい状況だとは考えておりません。

今は学校が努力をして、デメリットをカバーしているから、子どもたちが楽しく学校で毎日を過ごすことができているという状況です。

教育委員会の立場からすると、学習指導要領に定められた教育内容があります。

例えば体育であれば、球技、集団的な活動といったものが、今の状況でもすでに厳しい状況です。これがそのまま統合を先延ばしにすれば、さらに厳しい状況になるということは将来推計で分かっていますので、教育委員会としては、どう解決するべきか、どう対応するべきかということを考えます。

ただ、皆さまの思いについてはしっかりと受けとめたいと思います。

○飯田教育政策課長（事務局）

時間が迫っていますので、質疑応答は以上とさせていただきます。

皆さま、貴重なご意見、ありがとうございました。

本日いただきましたご意見につきましては、事務局で取りまとめ、教育委員会議や市議会等にて報告します。

また、資料の 35 ページに事務局の問い合わせ先を記載しています。

ご質問やご意見等がございましたら、こちらまでお願いします。

○古谷教育総務部長（事務局）

本日は、お忙しい中、ご参加いただきましてありがとうございます。

本日いただいたご意見については、今後の検討の参考にし、教育委員会、議会へ報告します。

立場や考え方によって、さまざまなご意見がある中で、一つの結論を出すということは本当に難しいことであると思います。

教育委員会としては、現在と未来の子どもたちのより良い教育環境のためという視点を、皆さまと共有しながら、引き続き最良の方策を検討して参りたいと思います。

本日はありがとうございました。

○飯田教育政策課長（事務局）

それでは、田浦地域の教育環境整備についての説明会は、終了とさせていただきたいと思えます。

本日は、ご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

以上